

令和 4 年度

苫小牧市美術博物館事業評価報告書

(令和 3 年度美術博物館自己点検評価に関する報告)

令和 5 年 6 月

苫小牧市美術博物館協議会

目 次

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
2	苫小牧市美術博物館自己点検評価の流れ・・・・・・・・	3
3	自己点検評価の結果・・・・・・・・・・・・・・・・	5
	(1) 展示事業・・・・・・・・・・・・・・・・	5
	(2) 教育普及事業・・・・・・・・・・・・・・・・	7
	(3) 調査研究活動・・・・・・・・・・・・・・・・	8
	(4) 資料の収集・保存・・・・・・・・・・・・・・・・	8
	(5) 管理運営・・・・・・・・・・・・・・・・	9
4	自己点検評価シート(一次・二次評価)・・・・・・・・	11
5	これからの美術博物館のあり方・・・・・・・・	21
6	苫小牧市美術博物館協議会委員名簿・・・・・・・・	22

1 はじめに

当館は、国内でも数少ない美術館、博物館、埋蔵文化財センターとしての3つの機能を有しております。それらの共存する機能を活かし、市民が美術・歴史等に触れ、学習によって豊かな感性を育てるとともに、歴史・考古・自然史の各資料や美術作品を収集・保存、調査研究し、市の財産として後世へ継承していくことが当館の使命であり、この使命に基づき3年毎に「苫小牧市美術博物館実施計画」を策定しております。

令和3年度は、「苫小牧市美術博物館実施計画」の3期目（令和2～4年度）の2年目にあたり、1期目、2期目で取り組んできた教育普及、調査研究、資料の収集・保存の各活動を深めていくことを方針として努めてまいりました。しかし、3期目については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、臨時休館や講演会、イベントを中止・縮小するなど、計画した事業を満足に行えない期間でもありました。一方、企業連携の強化や行事のオンライン化、登録ボランティアの活躍の場の拡充など、感染対策と向き合いながら進展を見た事業もありました。

この実施計画で示した目標の達成度を検証するためには、様々な方法で評価を行う必要があります。そのため、当館ではアンケート等により事業に対するご意見やご要望を伺い、事業の結果についての自己評価（一次評価）を行いました。その結果を踏まえて美術博物館協議会委員による外部評価（二次評価）を行っていただきました。自己評価と外部評価をまとめた本報告書を公開するとともに、これからの博物館活動の改善に活かしてまいります。

令和5年6月

苫小牧市美術博物館
館長 藤原 誠

2 苫小牧市美術博物館自己点検評価報告の流れ

■概要

苫小牧市美術博物館自己点検評価報告は、現在行っている活動を振り返り、適正に行われているかどうかを自己点検することで課題や反省を自覚し、改善点の検討につなげるものである。

■自己点検評価の流れ

年度当初

「公益財団法人日本博物館協会 博物館自己点検システム」を基にした評価指標（年間目標）の設定



年度末

【一次評価（自己評価）】

評価指標を基にした評価	具体的な内容を総括的に評価	客観的な視点
自己点検評価シート ・大項目は「苫小牧市美術博物館実施計画」に基づき設定（大別すると5事業の活動計画に分類） ・必要に応じて、利用者の声であるアンケート結果を反映させる ・スタッフ全員による評価結果の中央値を館による一時評価とする	I. 展示事業、II. 教育普及事業に関する報告と評価 ・事業内容、観覧者・参加人数、アンケート内容等の報告及び所見 III. 調査・研究に関する報告と評価 ・各学芸員の1年間の研究テーマに基づく業務内容の報告及び所見 IV. 資料の収集、保存に関する評価 ・該当する方針に基づいて収集し、適正に管理をしているか、どうかを評価 V. 管理運営に関する評価 ・施設の改善に努め、効率的に運営管理しているか、どうか等を評価	公益財団法人 日本博物館協会「博物館自己点検システム」参照 ・全国の博物館・美術館の自己点検に使用されている点検システムを参考資料に採用する



【二次評価】

一次評価を美術博物館協議会に提出。各委員が活動内容や評価指標（目標）の達成度を第三者の目線でチェックしたものを二次評価とする。



一次評価と二次評価をまとめ、苫小牧市美術博物館事業評価報告書を作成する。

3 自己点検評価の結果

(1) 展示事業

【方針】

博物館と美術館の複合施設として様々な展示活動を実施します。

- ① 複合施設としてそれぞれの特性を活かした新しい視点による事業を実施します。
- ② 常設展の情報の更新やデータの追加など、常設展の充実に努めます。
- ③ 他都市館園や地元企業、外部機関と積極的に連携を進め、様々な特別展、企画展を開催します。

<一次評価（美術博物館による自己評価）による総評>

①特別展

特別展は特定分野や主題で企画するもので、外部からの資料借用等も積極的に行い、これらを通して外部機関と連携を図るなど、当館の企画展示室で実施する展示会としてはもっとも規模の大きいものと位置付けており、基本的に毎年1回開催しています。令和3年度は、特別展「発掘された日本列島 2021」を開催しました。同展は文化庁などが主催の巡回展で北海道では14年ぶり、胆振管内では初めての開催でした。巡回展のほかに静川遺跡を中心とした環壕遺構を紹介した地域展示を通じて、全国で行われている発掘調査の成果だけではなく苫小牧地方の考古学に関する興味関心を深めてもらう展示会となりました。

②企画展

企画展は自然・歴史・考古・文化芸術の分野において学芸員の調査研究の成果を元に、特定のテーマを掘り下げたり、広く捉えたりする展示会で、年に数回開催しています。単一の専門分野で行うほか、複数の分野を横断する展示会があり、当館収蔵資料や外部からの借用資料・制作委託作品などにより構成されます。

「コイノボリ大火と苫小牧消防史」は、大正10（1921）年5月1日に苫小牧町（現在の苫小牧市大町三条通り）で発生した火災「コイノボリ大火」に関する歴史や明治時代から現在に至るまでの苫小牧の消防制度の変遷について紹介しました。災害への向き合い方や苫小牧のまちの発展の歴史への理解を深める展覧会となりました。

「ラムサール条約登録30年 ウトナイ湖・うつりゆく自然とその未来」は、ウトナイ湖がラムサール条約に登録されてから30年を迎え、改めてその自然環境の魅力や変化等を紹介しました。当館が所蔵している100点以上の標本を展示したほか、渡り鳥のルートを投影した球体スクリーンや足踏み式展示等の体験型の展示を取り入れ、年代を問わずに楽しんでいただける展示会となりました。

「NITTAN ART FILE 4：土地の記憶～結晶化する表象」は、胆振・日高地方ゆかりの現代美術を紹介する展覧会シリーズの4回目で、「土地の記憶」をテーマに固有の場所にまつわる歴史やそこに蓄積されていく記憶を源泉とする表象―感覚的に思い浮かべられる知覚や心象、観念など―を美術家、版画家、写真家、構造家という4人

の現代作家の芸術表現を紹介しました。博物資料を活用した作品展示も行うなど、複合施設ならではの取組も知っていただける展覧会となりました。

③収蔵品展

「苦小牧ゆかりの書 蔵出し展」は、現代書道の父と称される比田井天来をはじめ、東宮御所で書道御進講を務めた桑原翠邦や近代詩文書の世界を開拓した金子鷗亭ら北海道を代表する書家、その系譜を継ぐ二階堂北翠や毛利壽海ら苦小牧ゆかりの書家を紹介しました。当館では初めての書をテーマとした展覧会となりました。

「鳥のいる風景」は、同時開催の企画展「ラムサール条約登録 30 年 ウトナイ湖・うつりゆく自然とその未来」が「鳥」を多く扱っていることに連動して「鳥」をテーマに作品を紹介しました。勇払原野や樽前山麓の豊かな自然に恵まれた苦小牧では、日常的に様々な鳥の姿を目にすることができ、収蔵作品にも個性豊かな鳥たちの姿が登場しています。それらの作品から 11 点を選出し、展示しました。

④中庭展示

「武田浩志 TAKEDA system vol.10」は、絵画と立体の境界を越えた創作活動を続ける美術家の最新作を紹介しました。ネオンカラーの描線がもたらす流動性、そして、透明メディウムの層が織りなすテクスチャーなど、純粹な造形性によって見る者を魅了する抽象絵画とあわせて、中庭空間にしつらえられた、武田特有のセンスが凝縮する小屋のたたずまいを展示するとともに、期間限定でその内部に入る機会を設けました。

「澁谷俊彦 雪待の庭「薄雪」／Snow Pallet 16」は、冬や雪、自然や大地などから着想を得た作品を制作する美術家の最新作を紹介しました。白い鉄製のオブジェの裏面に塗布された蛍光塗料が、光の反射の作用により鮮やかな色彩を表出させる軽やかで洗練された澁谷の作品世界を展示しました。

令和 3 年度は、前年度に引き続き、コロナ禍による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の影響による臨時休館等により、全体的な入館者数は伸び悩みましたが、各分野において学芸員の調査研究の成果を基にした展示会を取りそろえ、当館の独自性を示すことはできたと考えています。

<二次評価（美術博物館協議会委員による評価）>

- ・二次評価の中央値はA評価であった。
- ・展示方針に市民意見の反映が見られない。自然史と美術の複合視点が市民には分かりにくい。
- ・多岐に渡って活動されていると思う。
- ・展示に関連した印刷物の質が向上していると思う。さらに活用、周知が広まるよう願う。
- ・恒久的な美術作品の常設展示を期待する。
- ・様々な展示を企画していると思う。

(2) 教育普及事業

【方針】

子どもから高齢者まで幅広い市民を対象にした多彩な教育普及事業を実施します。

- ① 市民の自然、歴史、考古および文化芸術への多彩なニーズに応えるため、各種講演会、講座、ワークショップなど多彩な事業を展開します。
- ② 学芸員の専門性を活かした事業を実施し、学ぶ喜びを得る機会を提供します。
- ③ 学生や教員など学校教育と連携し、子どもたちの学習意欲や豊かな心を育みます。
- ④ 市民がより深く学べる場をつくり、次世代の担い手を育てます。

<一次評価（美術博物館による自己評価）>

教育普及事業は、通年プログラムのうち「美術博物館大学講座」、「子ども広報部びとこま」、「古文書解読講座」は人気事業として定着していますが、コロナ禍による中止を余儀なくされる場面がありました。また、体験プログラムの「美術博物館祭2021」は中止となり、5月と11月に実施している「無料観覧日」も多くの人数が集まるためイベントは中止し、観覧のみとしました。学校連携プログラムのうち、「郷土学習」は小学校3・4年生の社会科授業として学校からの評価も高く、美術のアウトリーチ事業「みゅーじあむ in スクール」とともに当館と児童・生徒との接点となる事業になっています。両事業ともプログラムを変更し、感染対策をとった上で実施しました。この他、中学生の「職場体験」は学校からの申し出で中止となり「社会科自由研究発表会」は関係機関と協議の上、中止となりました。しかし、前年度中止となっていた「教員のための博物館の日」は、開催することができ、教職員に当館を活用するための情報を研修という形で提供することができました。例年より少数には留まりましたが、小学校の授業での当館の利用や学芸員実習など、児童から社会人まで幅広く当館を活用し、地域の教育機関としての機能を果たすことができたと考えます。

<二次評価（美術博物館協議会委員による評価）>

- ・二次評価の中央値はA評価であった。
- ・質の高いオリジナリティのある教育プログラムを提供していると思う。
- ・コロナの影響で活動内容が制限されたため、致し方ないと思うが、美術博物館祭のような一般や子ども達に絶好の「また行きたい」と思わせる機会がもっと増えると良いと思う。
- ・コロナの影響が続く中での実施はご苦労があったことと拝察する。今後も参加者が増え、関心が寄せられることを願う。
- ・春に市に転入した人向けに苦小牧について知る講座を開催していただけると嬉しい。

(3) 調査研究活動

【方針】

自然、歴史、考古、文化芸術に関する基本的な調査研究のほか、収集する資料に必要な調査研究活動を行います。

- ① 収集資料に関する調査研究を推進します。
- ② 樽前山麓及び勇払原野を中心とした、苫小牧周辺地域に関する調査研究を行います。
- ③ 大学などの高等教育機関、他都市館園などと連携を深め、グローバルな視野で苫小牧の発展に寄与する調査研究を行います。

<一次評価（美術博物館による自己評価）>

日本博物館協会の令和元年度の全国 2,314 館の調査結果では「展示活動」にもっとも力を入れている館は全体の 64.3%で突出して高い傾向にあります。一方、「調査研究」は 6.8%「収集保存」は 8.1%で年々減少傾向にあります。また「教育普及活動」も 18.0%で増加傾向にあります。ここから見て取れることは、館の活動を目に見える形で社会に示すためには、教育普及活動や展示活動が重要視されていることです。

また、特別展・企画展開催の全国平均は年 3.7 回、年間 3～4 回の開催が一般的となっています。全国平均比でおよそ 2 倍の展示会を実施している当館では、調査研究は主に次年度以降の展示会にむけての位置付けとなっており、企画展「ラムサール条約登録 30 年 ウトナイ湖・うつりゆく自然とその未来」や「NITTAN ART FILE 4：土地の記憶～結晶化する表象」の記録集の発行にみられるように、展示事業と調査研究は一体であり、関連事業としての教育普及事業も有機的に結びついています。展示会開催のためには、数年前から調査が必要であり、こうした現状を理解していただくよう、自助努力を続けるほかこれまで以上に発信する必要があります。

<二次評価（美術博物館協議会委員による評価）>

- ・二次評価の中央値はA評価であった。
- ・自然に関しては、長期的な視野や体験が欠かせないが、世代交代が進んだため精通した職員が減少し、気がかりである。ぜひ育成にも力を注いでほしい。
- ・幅広い専門家がいることに驚いた。北海道大学苫小牧研究林とは異なる専門性があることなので、コラボレーションできると面白いと思う。

(4) 資料の収集、保存の方針

【方針】

苫小牧周辺地域の資料を、「苫小牧市美術博物館資料収集方針」により収集し、適正な管理の下に保存するとともに他館との連携を行い、情報共有を図ります。

<一次評価（美術博物館による自己評価）>

令和3年度の収集資料は歴史47点、芸術202点でした。資料の増加状況に関しては、年度毎に寄贈申込みの件数が異なります。また、近年は重複する資料をお断りするなどの措置をとっているため減少傾向にあります。令和元年度に開催した企画展「浅野武彦の木版画の世界」で展示した作品の整理が整い、ご遺族の意向も踏まえ、寄贈を受けたことから、大幅な増加となりました。また、今後は老舗店の閉店などによる歴史資料の増加、郷土作家の没後に遺族からの寄贈の申し込みも予想され、変動が見込まれます。博物館開館から38年、美術館設置から9年が経過し、収蔵庫の狭隘化が課題となっています。一方、資料の貸出しについては、原則、館同士の相互貸借として活用するほか、研究機関への調査を目的として行っています。令和3年度は、当館所蔵資料の写真や映像等のデータ提供依頼が多く、特に国立アイヌ民族博物館の開館をきっかけとしてアイヌ資料の需要が目立っています。

<二次評価（美術博物館協議会委員による評価）>

- ・二次評価の中央値はA評価であった。
- ・写真や地図などをデジタルで公開できると良い。
- ・新しい美術品の収蔵リストの公開を希望する。
- ・資料の整理や管理が課題であると伺っています。ボランティアが手伝えるような環境の整備も進むと良いと思う。
- ・収集後の活用方策が必要である。何のために収集するのかをもっと論議することが必要。
- ・方針を立て適切に進めている。

(5) 管理運営

【方針】

複合施設の美術博物館として、施設の安全面と市民の利便性を考慮して、使いやすい施設を目指します。

- ① 安心できる美術博物館として施設の改善に努め、館内利用の快適度を高めていきます。
- ② 事業の質を担保しながら、経営的な視点を持って効率的に運営・管理します。
- ③ すべての人にとって利用しやすい環境を整えます。

<一次評価（美術博物館による自己評価）>

- ・施設・設備については、全体が老朽化しているため、維持管理のため独自の点検を行っています。案内表示も改善を図っていますが、今後は市建築等の専門職員の意見も反映させたいと考えています。
- ・運営・管理については、全職員で週1回の定例会議を開き、担当者間のミーティン

グを随時行うなど、緊密なコミュニケーションを行って事業を進めていることができています。入館者の目標については、年間 32,500 人、特別展が 5,000 人、企画展は各回 3,000 人の目標を設定しています。

- ・広報については、「美術博物館だより」や「びとこま」など紙媒体のものを発行したほか、ホームページ、フェイスブック、ツイッターを運用し、利用者の利便性の向上を図っています。
- ・市民参画では、NPO 法人樽前 arty プラスと連携した子ども広報部「びとこま」の活動、市民参加による「カササギ調査」など、市民や外部機関と協力した事業を展開しています。

<二次評価（美術博物館協議会委員による評価）>

- ・二次評価の中央値はA評価であった。
- ・中央玄関を入り、左側（展示室の逆側）と2階への案内が弱いような印象がある。2階の図書スペースを、多くの人にもっと利用してほしいと個人的に感じる。
- ・老朽化が心配。改修の方向性はあるのか。
- ・安全管理に配慮している。できるならば、老朽化している施設を計画的に更新してほしい。
- ・努力は認めるが、成果に結びついているのか点検が必要と思う。
- ・外部からは見えにくい部分なので評価も難しい。HP 公開もよほど興味がないとたどり着けない部分かもしれない。
- ・効率的に運営・管理している。
- ・ふらりと立ち寄れるような仕掛けが必要ではないか。美術博物館に行くことを目的にした人の施設になっている。
- ・以前より他所でポスターやチラシを見かける場面が増えたと思う。欲を言いますと若手のサポーターもいれば良い。
- ・利用しやすい環境を整えている。
- ・インスタグラムもぜひ始めてみてはどうか。
- ・学校にチラシ等が来るので目にはするが、一般の市民に十分に情報が行き届いているか疑問がある。

4 自己点検評価シート（一次・二次評価）

一次評価及び二次評価の評価基準は以下に定める。

A：成果を挙げている（90－100%）

B：ほぼ達成している（70－80%）

C：より一層努力を要する（50－60%）

D：努力が結果に結びついていない。方法そのものについて再検討を要する（50%未満）

I 展示事業

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価）	二次評価（協議会員による評価）
	評価指標	評価・コメント
	評価・指標に対する実績・評価理由	
博物館と美術館の複合施設として、様々な展示活動を実施します。	<p>1 展示方針を策定し、計画的に展示を行っている。</p> <p>＜評価＞A 苦小牧市美術博物館実施計画(3か年計画)を策定しているほか、単年度ごとに事業計画を策定している。</p>	<p>＜評価（中央値）＞A ＜内訳＞ A：8 B：2 ＜意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示方針に市民意見の反映が見られない。自然史と美術の複合視点が市民には分かりにくい ・多岐に渡って活動されていると思う。 ・展示に関連した印刷物の質が向上していると思う。さらに活用、周知が広まるよう願う。 ・恒久的な美術作品の常設展示を期待する。 ・様々な展示を企画していると思う。
	<p>2 収蔵品展の開催および常設展の定期的な更新を実施している。</p> <p>＜評価＞A 書の収蔵品展を初めて開催したほか、鳥をテーマにした収蔵品展を開催した。また、1階の収蔵展示室や2階のロビーを利用して、各分野の資料を順次展示している。</p>	
	<p>3 展示図録やガイドブックを作成・配布（販売）している。</p> <p>＜評価＞A 各展示会で展示資料リストのほか、企画展「ウトナイ湖・うつりゆく自然とその未来」、「NITTAN ART FILE 4」では記録集を作成した。</p>	
	<p>4 館の専門スタッフ（学芸員など）による展示の案内・解説、定期的実施している。</p> <p>＜評価＞A 各展示会において担当学芸員によるスライドトーク等を実施した。</p>	
	<p>5 複合施設としての特性を生かした展示活動をしている。</p> <p>＜評価＞B 企画展「ウトナイ湖・うつりゆく自然とその未来」と収蔵品展「鳥のいる風景」では、「鳥」という共通テーマで同時期に開催</p>	

	<p>するなど、自然史と美術の連携した展示会になった。また、企画展「NITTAN ART FILE 4」では、自然史資料を用いた美術展示を実施し、多角的な視点を与える展覧会になった。</p>	
	<p>6 他館や他団体との資料貸借により、幅広い展示活動を実施している。</p>	
	<p><評価>A 各展示会において、道内博物館、美術館等や作家所蔵の資料を借用した。特に特別展「発掘された日本列島 2021」（文化庁主催）では、全国の発掘調査の成果となる資料として一同に展示する機会となった。</p>	
	<p>7 アンケート結果により、来館者の高い満足度指数を得られている。</p>	
	<p><評価>A 各展示会においてアンケートを実施。いずれの企画についても、7割以上「良い」という評価を得ている。</p>	

II 教育普及事業

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価）	二次評価（協議会員による評価）
	評価指標	評価・コメント
	評価・指標に対する実績・評価理由	
<p>子どもから高齢者まで、幅広い市民を対象にした多彩な教育普及事業を実施します。</p>	<p>8 教育普及活動を、策定した方針のもとに計画的に行っている。</p>	<p><評価（中央値）>A <内訳> A：8 B：2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質の高いオリジナリティのある教育プログラムを提供していると思う。 ・コロナの影響で活動内容が制限されたため、致し方ないとは思いますが、美術博物館祭のような一般や子ども達に絶好の「また行きたい」と思わせる機会がもっと増えると良いと思う。 ・コロナの影響が続く中での実施はご苦勞があったことと拝察する。今後も参加者が増え、関心が寄せられることを願う。 ・春に市に転入した人向けに苫小
	<p><評価>A 苫小牧市美術博物館実施計画第3期及び令和3年度苫小牧市美術博物館事業計画に基づき、教育普及活動を実施した。</p>	
	<p>9 教育普及活動について参加者数の目標を設けている。</p>	
	<p><評価>B 展示会等の観覧者数の目標は設定している(3,000人)。各学芸員が実施している行事等は館全体としての目標は設定していないが、担当学芸員において、都度目標（定員）を設定した。</p>	
	<p>10 複合施設としての特性を活かした教育普及事業を実施している。</p>	
	<p><評価>A 専門分野の違う学芸員が協力して「美術博物館大学講座」を7回（延べ384</p>	

	<p>名)、「無料観覧日」を2回(647名)、博物館実習(1名)を実施した。</p>	<p>牧について知る講座を開催していただけると嬉しい。</p>
	<p>11 他館・大学等と連携したセミナー、研究会、ワークショップ等を行っている。</p>	
	<p>＜評価＞A 美術博物館大学講座では6つの機関に講師を依頼して実施したほか、各企画展の関連イベントで他団体等から講師を招いて講演やワークショップなどを5回実施した。また、樽前artyプラスと共催で子ども広報部「びとこま」を8回実施した。</p>	
	<p>12 博物館の利用についての講座、学芸員の仕事を体験する講座、バックヤードツアーなど、館の利用を支援する教育普及活動を実施している。</p>	
	<p>＜評価＞B 学校の教員を対象とした「教育のための博物館の日」を1回(48名)、カササギ調査の説明会を1回(20名)、標本づくり体験の講座を1回(12名)、博物館実習を1回(1名)実施した。</p>	
	<p>13 入館者用の図書・情報コーナー(室)を設けている。</p>	
	<p>＜評価＞A 1階に情報コーナー、2階に図書コーナーを設置している。</p>	
	<p>14 出張・移動活動(アウトリーチ活動)を行っている。</p>	
	<p>＜評価＞A 講師派遣による講座を11回(405名)、「みゅーじあむinスクール」を2回(171名)実施した。</p>	
	<p>15 学校と連携した行事や教員向けの研修会を充実させている。</p>	
	<p>＜評価＞A 市内小3、4年生を対象にした「郷土学習」を23校(1,526名)、学校への講師派遣を小学校3校に3回(132名)、中学校1校に1回(76名)、「みゅーじあむinスクール」を小学校3校(146名)に実施した。</p>	
	<p>16 博物館実習の実習生を受け入れている。</p> <p>＜評価＞A 8月19日から28日までの8日</p>	

	<p>間、実習生1名を受け入れ、学芸員がそれぞれの専門性を生かしたプログラムを実施した。</p> <p>17 アンケート結果により、参加者の高い満足度指数を得られている。</p> <p><評価>A ほとんどの行事においてアンケートを実施し、5段階評価の満足度の平均において最高評価か次点評価を得られている。今後もアンケートの結果を活かした美術博物館の運営に努めていく。</p>	
--	---	--

Ⅲ調査研究活動

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価）	二次評価（協議会員による評価）
	評価指標	評価・コメント
	評価・指標に対する実績・評価理由	
<p>自然、歴史、考古、文化芸術に関する基本的な調査研究のほか、収集する資料に必要な調査研究活動を行います。</p>	<p>18 専門職の学芸員が常勤として配置されている。</p> <p><評価>A 令和3年度は7人の専門職の学芸員を配置している（美術2名、歴史2名、書1名、考古1名、自然史1名）。</p>	<p><評価（中央値）>A <内訳>A：7 B：3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然に関しては、長期的な視野や体験が欠かせないが、世代交代が進んだため精通した職員が減少し、気がかりである。ぜひ育成にも力を注いでほしい。 ・幅広い専門家がいることに驚いた。北海道大学苫小牧研究林とは異なる専門性があることなので、コラボレーションできると面白いと思う。
	<p>19 学会の大会や他館、他機関主催の研修や研究会に業務として学芸員を派遣・参加させている。</p> <p><評価>A 全国美術館会議の学芸員研修会に2名、アイヌ文化ネットワークオンライン研修会に1名、オンライン学芸員研修に1名が業務として参加した。</p>	
	<p>20 展示や教育普及、調査研究の方針、保存など学芸員の活動の成果を館として刊行物等で公開している。</p> <p><評価>A 当館発行の紀要7号に、当館学芸員4名の論文を掲載した。内容はホームページでも公開している。</p>	
	<p>21 館として調査研究の方針・計画を策定している。</p> <p><評価>B 苫小牧市美術博物館実施計画で方針を策定し、調査研究活動に努めた。</p>	
	<p>22 収集している資料と関連する学問分野につ</p>	

<p>いて、調査研究に取り組み、館として専門誌・専門書を購入したり機材・器具を整備したり、調査研究するための環境整備(予算措置等)を行っている。学芸系職員の勤務時間・職務内容について、調査研究遂行のための配慮を加えている。</p>	
<p>-----</p> <p>評価>B 活動調査研究費として必要な予算を計上しており、調査研究遂行のための予算措置はなされている。ただし、調査研究のための勤務時間の確保や環境整備については課題といえる。</p>	
<p>23 資料の管理・修復・保存、展示・教育普及活動の理論や方法、博物館経営など、博物館学分野での調査研究に取り組んでいる。</p>	
<p>-----</p> <p>評価>C 展示に活かす標本製作の試みや研修会に参加するなど個々での活動はあるが、博物館学分野での調査研究までに至っていない。</p>	
<p>24 地域への貢献を視野に苦小牧を中心とした地域や関連資料について、調査研究に取り組んでいる。</p>	
<p>-----</p> <p><評価>A 各分野において、苦小牧を中心とした研究課題を設定している。その成果を各展示、講座、紀要などを通して市民に還元した。</p>	
<p>25 他館や他研究機関と共同研究を行っている。</p>	
<p>-----</p> <p><評価>A 国立アイヌ民族博物館と勇払弁天地区で発見された丸木舟の共同研究を開始したほか、カササギ調査を外部の専門機関と共同で実施した。さらに、他館と連携した展示を実施している。</p>	
<p>26 複合施設としての特性を活かした調査研究活動を実施している。</p>	
<p>-----</p> <p><評価>A 特別展、企画展の開催のための資料調査に基づき展示会を開催し、記録集を作成するなどの成果があった。</p>	

IV 資料の収集、保存方針

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価）	二次評価（協議会員による評価）
	評価指標	評価・コメント
	評価・指標に対する実績・評価理由	
<p>苫小牧周辺地域のある資料を、「苫小牧市美術博物館資料収集方針」により収集し、適正な管理の下に保存します。</p>	<p>27 館として資料収集の方針を策定している。</p> <p>＜評価＞A 「苫小牧市美術博物館資料収集要綱」を策定している。</p>	<p>＜評価（中央値）＞A ＜内訳＞ A：6 B：4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真や地図などをデジタルで公開できると良い。 ・新しい美術品の収蔵リストの公開を希望する。 ・資料の整理や管理が課題であると伺っています。ボランティアが手伝えるような環境の整備も進むと良いと思う。 ・収集後の活用方策が必要である。何のために収集するのかをもっと論議することが必要。 ・方針を立て適切に進めている。
	<p>28 法令、条例、倫理規定などを遵守して資料収集するために、館としてガイドラインを策定している。</p> <p>＜評価＞A 「苫小牧市美術博物館資料収集方針」、「苫小牧市美術博物館資料収集方針に基づく美術資料受入基準」を策定している。</p>	
	<p>29 資料の出所・来歴の妥当性、真贋などの検討を外部の専門家を含めて行い、その助言を得て資料の購入・受入を決定している。</p> <p>＜評価＞A 「資料収集方針」に基づき受入等を実施している。美術資料については、原則、資料収集委員会の意見を参考に資料の受入を行っている。</p>	
	<p>30 未整理資料について整理の計画を立てている。資料の修復を計画的あるいは必要に応じて行っている。</p> <p>＜評価＞C 未整理資料の整理については学芸員個々で少しずつ進めている面もあるが、資料のデジタル化も含め館全体の計画は今後の検討課題といえる。</p>	
	<p>31 収蔵資料のうちの7割以上について資料情報を記録している。また、資料目録のデジタル化に努め、公開・資料情報の追加・更新を適宜あるいは定期的に行っている。</p> <p>＜評価＞B 寄贈資料等が増加傾向にあるが、情報の記録に努めている。資料の管理としてナンバーリング、デジタル化は今後の課題である。</p>	

	<p>32 総合的有害生物管理（IPM）の考え方に基づき、日常的に虫菌害の予防措置をとっている。</p> <p>＜評価＞B 燻蒸処理や虫害調査を行っている。今後適切な資料管理を行なうための環境整備を進める。</p>	
	<p>33 収蔵品及び展示品の保存・展示環境について温湿度や光量を管理している。</p> <p>＜評価＞A 展示室内では一部温湿度管理を行っている。</p>	
	<p>34 展示室内に監視員や監視カメラを配置している。</p> <p>＜評価＞A 特別展では監視臨時職員、企画展ではボランティアによる監視員を配置、防犯対策のため監視カメラを設置している。</p>	
	<p>35 資料の貸出しを認めると同時に規定・手続きを整備している。</p> <p>＜評価＞A 資料の貸出規定を定め、近隣館園での事業や研究、書籍への画像や情報掲載のために利用されている。</p>	
	<p>36 他館や研究施設と連携し、資料の保存・管理に対する情報を積極的に収集している。</p> <p>＜評価＞B 学芸職員部会、研修会への参加により、他館等との連携はできているが、今後はより一層の管理レベルの向上を図る。</p>	

V 管理運営

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価）	二次評価（協議会による評価）
	評価指標 評価・指標に対する実績・評価理由	評価・委員コメント
安心できる美術博物館として、施設の改善に努め、館内利用の快適度を高めていきます。	<p>37 施設・設備の維持・改善について計画を立てている。</p> <p>＜評価＞B 施設・設備全体が老朽化しているため、施設の維持管理について、独自点検を行っているほか財政当局と協議している。</p> <p>38 危機管理マニュアルを整備し、防災・消防・救急・救命訓練を定期的実施している。</p>	<p>＜中央値＞A</p> <p>＜内訳＞ A：7 B：3</p> <p>・中央玄関を入り、左側（展示室の逆側）と2階への案内が弱いような印象がある。2階の図書スペースを、多くの人にもっと利用してほしいと個人的に感じ</p>

	<p><評価>A 定期的に防災・消防訓練を実施している。</p> <p>39 バリアフリー化について改善が必要な個所を把握するための自己点検を実施している。</p> <p><評価>A 適宜点検し、「苫小牧市バリアフリー特定事業計画」に基づき実施している。</p> <p>40 案内表示に関しては、できる個所からまたは計画的に改善を行っている。来館者の動線に関して目視調査などによって現状を把握し、必要な改善を行っている。</p> <p><評価>A 現状職員同士の見直しによる改善を図っているが今後、市建築等の専門職員の意見も反映させたい。</p>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が心配。改修の方向性はあるのか。 ・安全管理に配慮している。できるならば、老朽化している施設を計画的に更新してほしい。
	<p>41 館内の美化に努めるほか、休憩コーナーを設置するなど利用者の利便性向上に努めている。</p> <p><評価>A エントランスおよびラウンジを無料で開放するなど、利用者にとって心地よい館内空間を意識して努めている。</p> <p>42 利用実態に応じて開館時間を延長したり夜間開館を行ったり、開館時間の設定の見直しを行っている。</p> <p><評価>B 夜間開館について今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止した。今後も利用者の利便性を考慮し検討していく。</p> <p>43 質問・相談・問い合わせができる体制（窓口、電話・ファックス・手紙、インターネットの活用など）を整えている。</p> <p><評価>A エントランスの学芸員相談コーナーや、ホームページにおいて利用者の意見を広く聞く体制を継続している。</p>	
<p>事業の質を担保しながら、経営的な視点を持って効率的に運営・管理します。</p>	<p>44 館と設置者の間の連絡調整を定期的に行っている。</p> <p><評価>A 教育委員会のほか、市の関連部署との連携を行っている。</p> <p>45 館の事業や業務に関して、意思決定のための会議を定期的に行っている。</p>	<p><中央値>A</p> <p><内訳> A:9 B:1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・努力は認めるが、成果に結びついているのか点検が必要と思う。 ・外部からは見えにくい部分な

	<p>＜評価＞A 週1回の全職員での定例会議や学芸員のみ参加する学芸会議、担当者間でのミーティングを随時行っている。</p> <p>46 展覧会ごとの観覧者数について目標を設定し、目標を達成するために年度毎及び中長期的な経営計画を立てている。</p> <p>＜評価＞A 入館者数の目標値は市基本計画(2018～2022年度)で32,500人と設定。また、各展示会の観覧者数については、特別展が5千人、企画展は一展示会につき3千人の目標を立てている。</p> <p>47 事業面、管理運営面など全般にわたる自己評価及び外部評価を実施している。</p> <p>＜評価＞A H26年度より美術博物館運営協議会委員による外部評価「自己点検評価(本評価)」を実施している。</p> <p>48 年報、要覧やインターネットを通して、事業実績や館の運営状況を公開している。</p> <p>＜評価＞A 毎年発行している年報、紀要、美術博物館だよりを、ホームページ上で公開(PDF)している。</p> <p>49 外部資金の効果的な導入を実施している。</p> <p>＜評価＞B 可能な限り補助金等の外部資金を活用している。</p>	<p>の、評価も難しい。HP公開もよほど興味がないとたどり着かない部分かもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的に運営・管理している。
<p>すべての人にとって利用しやすい環境を整えます。</p>	<p>50 館として広報宣伝計画を策定している。</p> <p>＜評価＞A 毎年度、秘書広報課に次年度の計画を提出し、計画に沿って市広報誌に掲載している。</p> <p>51 館のホームページを開設し、掲載内容を適時・適切に更新できる体制をとっている。</p> <p>＜評価＞A HPは定期的に更新し、最新情報を公開している。</p> <p>52 館の広報誌(ニュース・レターなど)を発行している。</p> <p>＜評価＞A 「美術博物館だより」や、子ども広報部の広報誌「びとこま」を発行している。</p> <p>53 入館者数増加に向けた取り組みをしてい</p>	<p>＜中央値＞A</p> <p>＜内訳＞ A:8 B:2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふらりと立ち寄れるような仕掛けが必要ではないか。美術博物館に行くことを目的にした人の施設になっている。 ・以前より他所でポスターやチラシを見かける場面が増えたと思う。欲を言いますと若手のサポーターもいれば良い。 ・利用しやすい環境を整えている。 ・インスタグラムもぜひ始めてみ

	<p>る。</p> <p>＜評価＞A 利用者のニーズを反映した企画の検討、並びに新聞への情報掲載、関係機関への印刷物の配布を行っている。併せて、フェイスブックとツイッターを運用し、利用者への情報発信と利便性の向上を図っている。</p>	<p>てはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校にチラシ等が来るので目にはするが、一般の市民に十分に情報が行き届いているか疑問がある。
	<p>54 館の利用実態や動向、利用のニーズを把握するために館利用に関するアンケートやモニター調査を実施している。</p> <p>＜評価＞A 各事業や館自体についてのアンケートを実施し、利用者のニーズの把握に努めている。</p>	
	<p>55 「友の会」を設置すると共に「ボランティア制度」を導入している。</p> <p>＜評価＞A 登録調査研究支援団体として、「郷土文化研究会」「博物館友の会」「美術館友の会」を支援している。併せて、「ボランティア制度」を導入し、展示会の監視活動等を実施している。</p>	
	<p>56 地元 NPO などと関わるなど、市民が館の事業に参画する機会を設けている。</p> <p>＜評価＞A NPO法人樽前 arty プラスと連携した子ども広報部「びとこま」の活動、市民参加による「カササギ調査」など、市民や外部機関と協力した事業を展開している。</p>	
	<p>57 「博物館協議会」などを通じて市民に、館の運営に参画してもらっている。</p> <p>＜評価＞A 「美術博物館協議会」を設置し、年2回開催している。</p>	
	<p>58 地元の企業・団体（観光協会、商工会議所など）と協賛・協力し、事業を実施している。</p> <p>＜評価＞A 各展示会において地元企業や新聞社の後援を得ている。また特別展については、商工会議所の協力を得てチラシ等の配布を行っている。</p>	

5 これからの美術博物館のあり方について

苫小牧市美術博物館実施計画（3期目）の基本方針は、地域に関わる資料の収集と保存、学芸員の専門性を生かした調査研究の実施、そして、外部機関や市民団体とのネットワーク強化によって、子どもたちや市民が知的好奇心や自然・文化芸術への学びを深めることができる質の高い美術博物館となるようにするとされている。この観点から、展示事業、教育普及事業、調査・研究活動、資料の収集・保存方針、管理運営の5項目の事業及びそれらを細分化した58項目の評価指標について、美術博物館が自己点検評価（一次評価）を実施した。次に、美術博物館協議会委員10名が、一次評価結果、美術博物館事業報告等の資料および事業の視察などをもとに二次評価を行った。

【総合評価】

美術博物館による自己点検評価（一次評価）では58指標のうち46指標（79%）がA評価、10指標（17%）がB評価、2指標（3%）がC評価となった。

美術博物館協議会委員による二次評価では「展示事業」と「教育普及事業」に関し、委員10名中8名がA評価をつけ、コロナ禍にあっても質の高い多岐に渡る活動を実施していると評価された。一方、「調査研究活動」は長期的な視野に基づいた研究活動を行うべきとの指摘や、「資料の収集、保存の方針」では、収蔵資料のデジタル化や市民協働を進めるための環境整備を推進すべきとの指摘があった。

今後も社会情勢の変化により、美術博物館に求められることは変わってくるものが考えられる。コロナウイルスへの対応も変わり、コロナ禍に取り入れた新たな取り組みを継続するものや、コロナ禍前のように対面式に戻していく取組みもあると思う。前例にとらわれない柔軟な姿勢で、日々の業務に取り組んでいただきたい。

令和5年6月

苫小牧市美術博物館協議会
会長 斎野 伊知郎